

# 2020年度第1四半期 決算ハイライト

2020年8月4日

## 連結P/L

(億円)	19年1Q*1	20年1Q	増減
1 業務粗利益 (信託勘定償却前)	9,557	10,778	1,221
2 資金利益	4,443	4,690	247
3 信託報酬 + 役務取引等利益	3,352	3,297	▲ 55
4 特定取引利益 + その他業務利益	1,761	2,790	1,029
5 うち国債等債券関係損益	852	1,659	807
6 営業費 (▲)	6,700	6,787	87
7 業務純益	2,856	3,991	1,134
8 与信関係費用総額	341	▲ 1,450	▲ 1,791
9 株式等関係損益	239	60	▲ 179
10 株式等売却損益	280	94	▲ 185
11 株式等償却	▲ 41	▲ 34	6
12 持分法による投資損益	792	566	▲ 226
13 その他の臨時損益	278	▲ 389	▲ 667
14 経常利益	4,508	2,777	▲ 1,730
15 特別損益	75	▲ 139	▲ 215
16 法人税等合計	▲ 447	▲ 628	▲ 181
17 親会社株主四半期純利益	3,891	1,834	▲ 2,057
18 1株当たり利益 (円)	30.12	14.29	▲ 15.83
(ご参考)			
19 ROE (MUFG定義)	11.32%	5.39%	▲ 5.92%
20 経費率	70.1%	62.9%	▲ 7.1%

### 1 業務粗利益

- 海外子会社の新規連結化に伴う資金利益の増加に加えて、債券関係損益増加もあり業務粗利益は1,221億円増加

### 2 営業費・経費率

- 営業費は海外子会社の新規連結化影響があるも87億円増加に留まる
- 経費率は、業務粗利益の増加を主因に62.9%に低下

### 3 与信関係費用総額

- 新型コロナウイルス感染症拡大による世界的な信用リスクの増加や、海外子会社における新会計基準導入の影響もあり、前年同期比1,791億円増加し、1,450億円の費用計上

### 4 親会社株主四半期純利益

- 上記の与信関係費用総額の増加に加えて、退職給付費用の増加や、前年度のKS子会社株式売却に伴う特別利益の反動もあり、親会社株主四半期純利益は2,057億円の減益

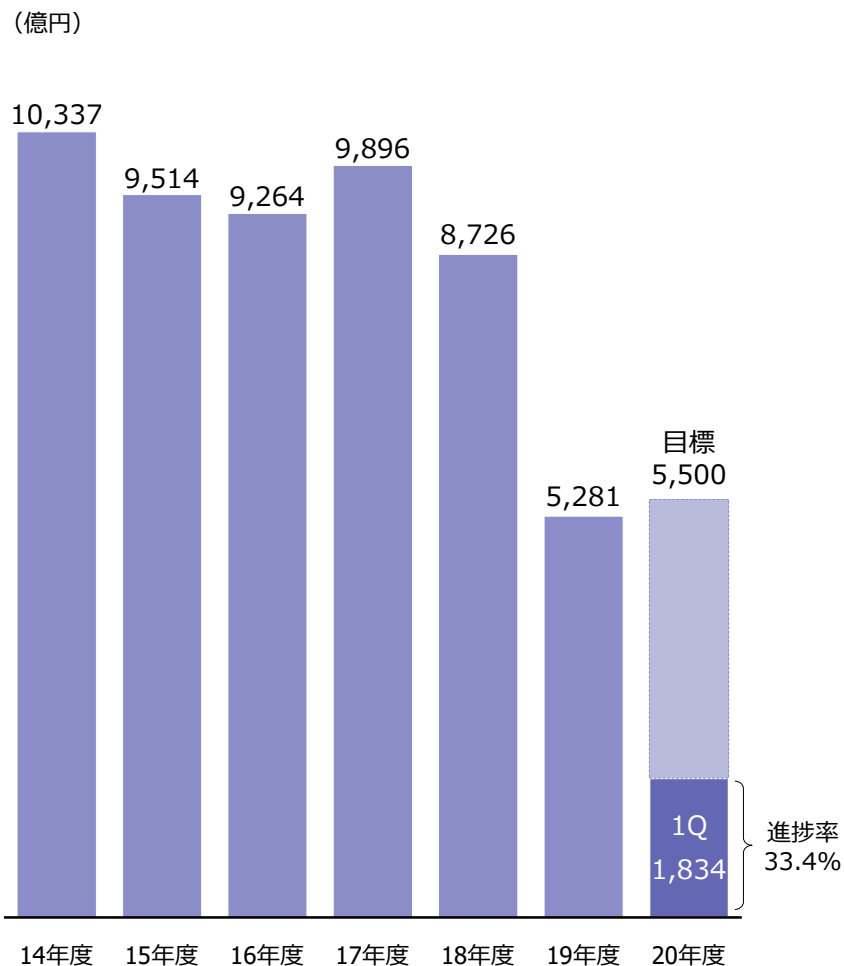
\*1 企業会計基準第30号「時価の算定に関する会計基準」及び企業会計基準適用指針第31号「時価の算定に関する会計基準の適用指針」を遡及適用

\* 本資料における計数・表記の定義は最終ページに掲載

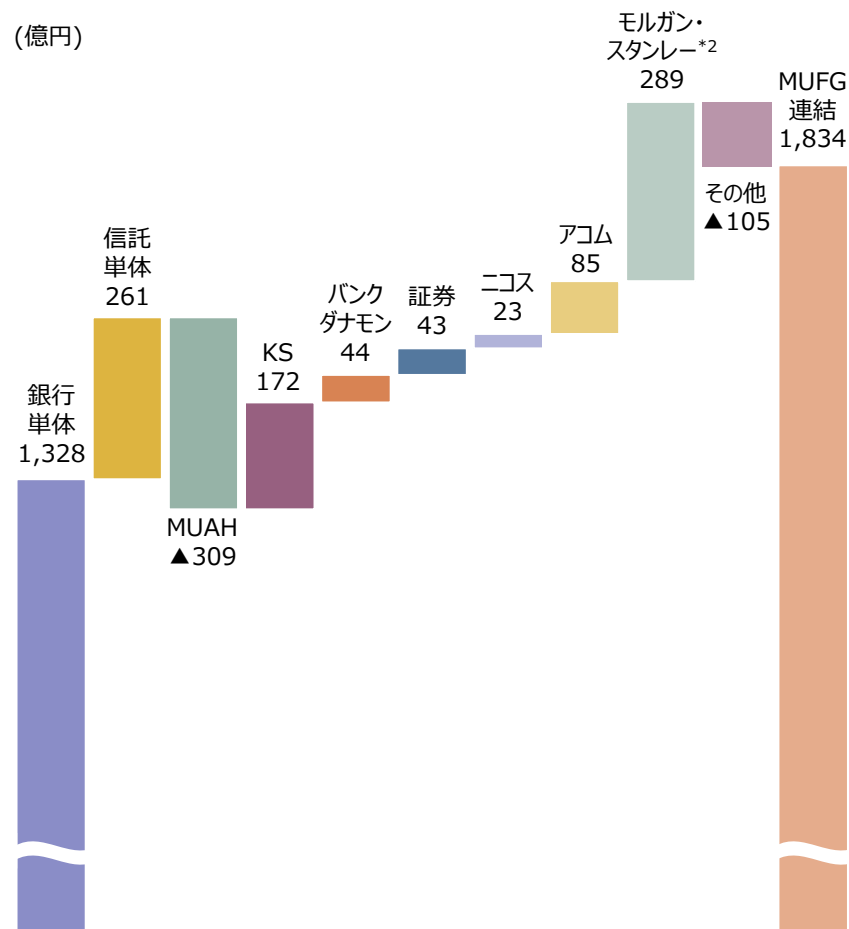
# 親会社株主純利益の概要

【連結】

## 親会社株主純利益の推移



## 親会社株主四半期純利益内訳\*1



\*1 持分比率勘案後の実績

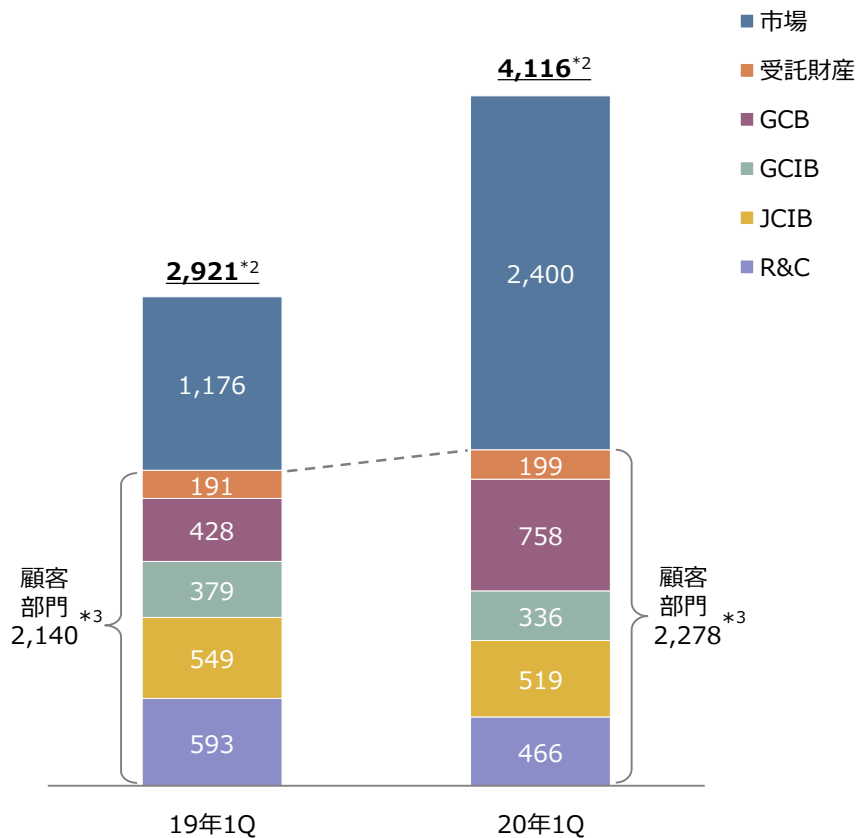
\*2 持分変動損失▲165億円を含む

# 事業本部別業績

【連結】

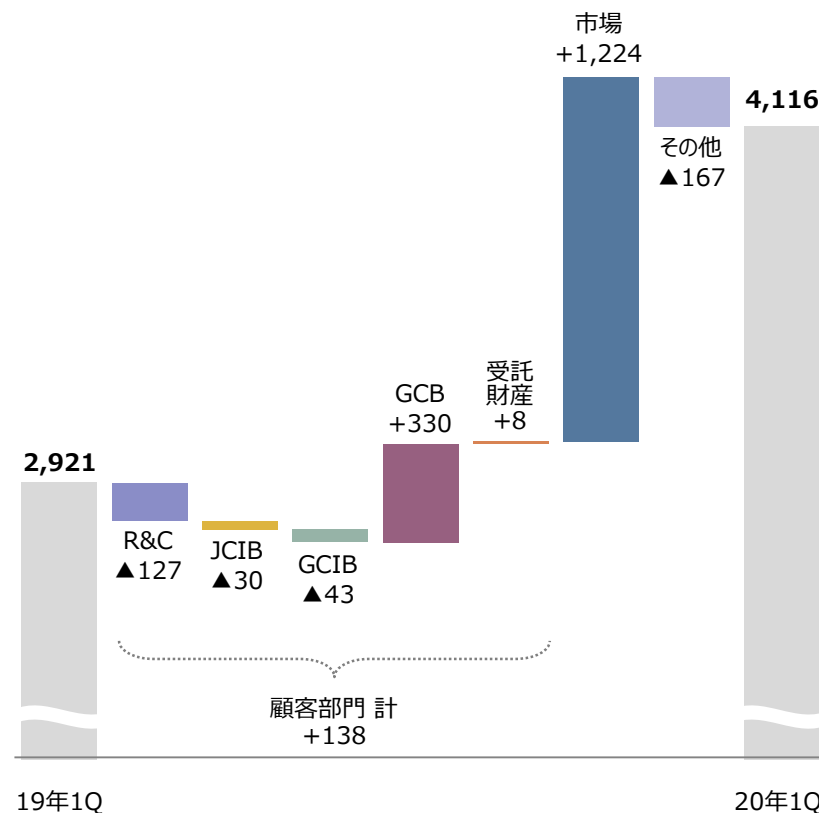
## 事業本部別営業純益\*1

(億円)



## 営業純益増減内訳

(億円)



\*1 社内管理上の連結業務純益 \*2 本部・その他（19年1Q ▲395、20年1Q ▲562）を含む

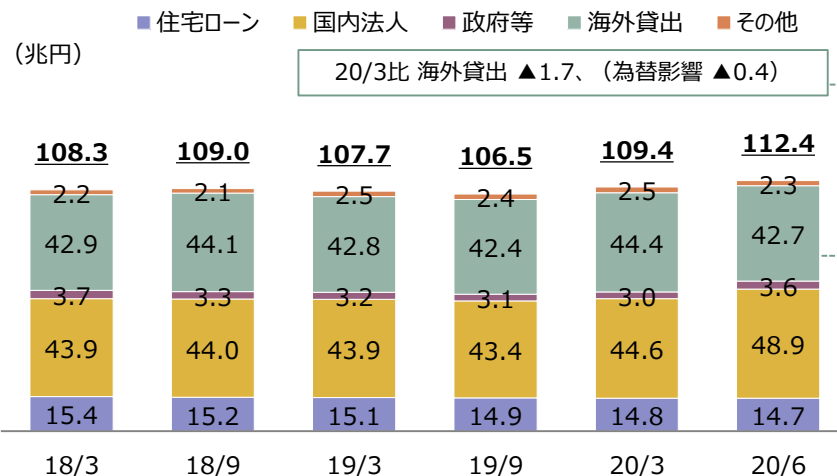
\*3 営業純益合計（\*2）に顧客部門営業純益の占める割合は19年1Qで73%、20年1Qで55%。

海外対顧収益比率（（GCIB+GCB）÷顧客部門営業純益）は19年1Qで38%、20年1Qで48%

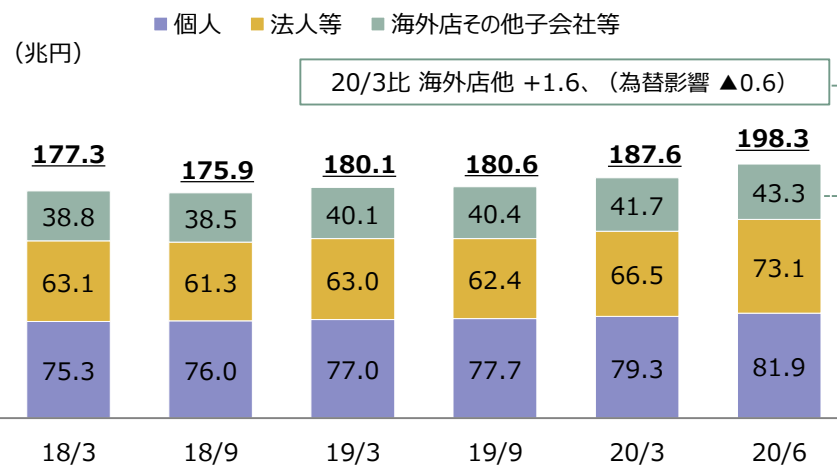
## 連結B/S

(億円)	20年6月末	20年3月末比
1 資産の部合計	3,419,049	53,335
2 貸出金 (銀行勘定+信託勘定)	1,124,886	30,142
3 貸出金 (銀行勘定)	1,121,554	30,408
4 うち住宅ローン <sup>*1</sup>	147,958	▲242
5 うち国内法人貸出 <sup>*1*2</sup>	489,681	43,331
6 うち海外貸出 <sup>*3</sup>	427,332	▲17,120
7 有価証券 (銀行勘定)	667,156	11,604
8 うち国内株式	53,368	3,875
9 うち国債	252,549	35,113
10 うち外国債券	227,570	▲27,803
11 負債の部合計	3,250,068	52,911
12 預金	1,983,667	107,431
13 うち個人預金 (国内店) <sup>*4</sup>	819,052	25,876
14 うち法人等預金 <sup>*4</sup>	731,029	65,251
15 うち海外店その他子会社等預金	433,585	16,304
16 純資産の部合計	168,980	423
17 金融再生法開示債権 <sup>*1</sup>	7,121	578
18 開示債権比率 <sup>*1</sup>	0.68%	0.03%
19 その他有価証券評価損益	33,378	4,492

## 貸出金推移 (末残)



## 預金推移 (末残)



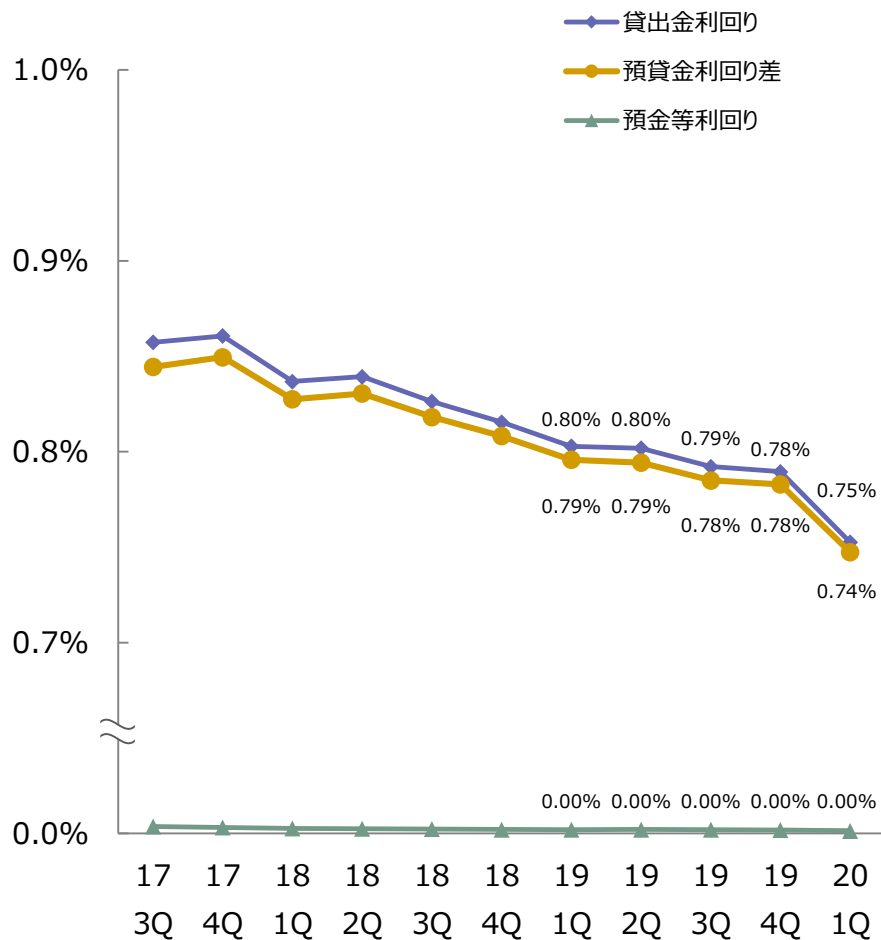
\*1 2行合算+信託勘定 \*2 政府等向け貸出除く、外貨建貸出を含む (除く為替影響: 20年3月末比 +4.3兆円)

\*3 海外支店+MUAH+KS+バンクダナモン+MUFGバンク (中国) +MUFGバンク (マレーシア) +MUFGバンク (ヨーロッパ) \*4 2行合算

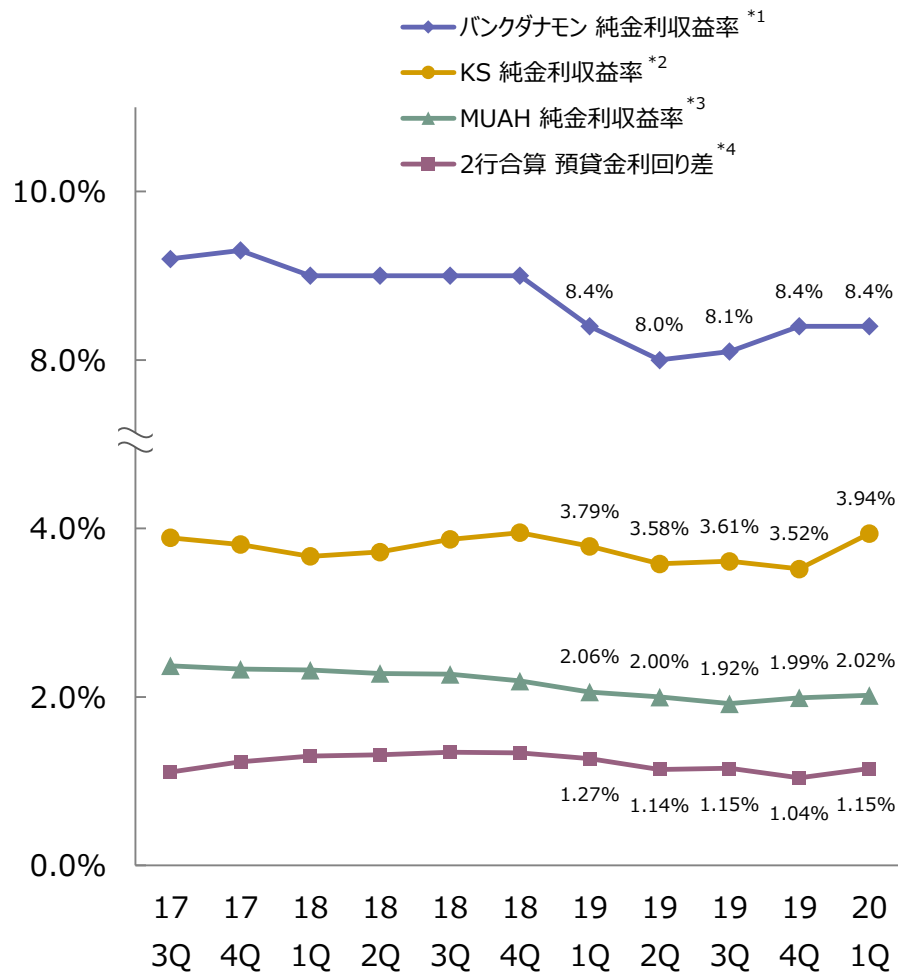
# 預貸金利回り等の推移

# 【2行合算、MUAH、KS、バンクダナモン】

## 国内預貸金利回りの推移（政府等向け貸出除き）



## 海外利回り等の推移



\*1 インドネシア会計基準に基づくバンクダナモンの決算報告書における財務情報  
 \*2 タイ会計基準（2020年1月1日よりIFRS 9を適用開始）に基づくKSの決算報告書における財務情報  
 \*3 米国会計基準に基づくMUAHのForm 10-K・Form 10-Qにおける財務情報  
 \*4 社内管理上の計数

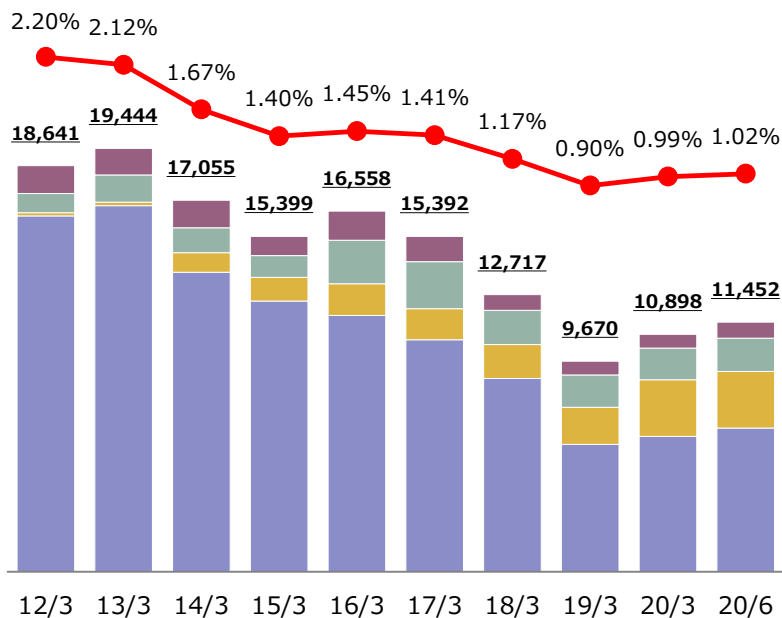
# 貸出資産の状況

【連結】

## リスク管理債権合計\*1

(億円)

● リスク管理債権比率 \*3

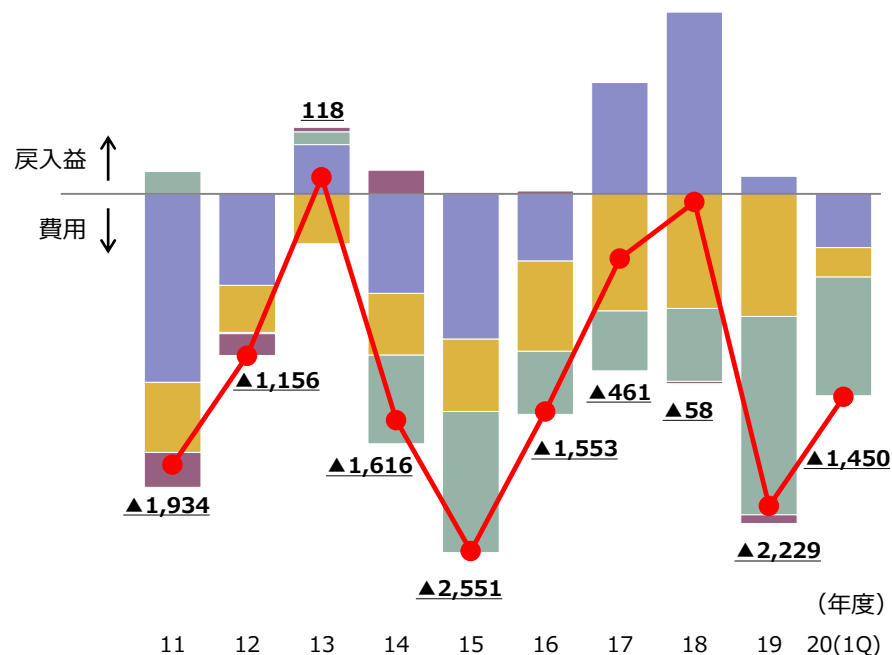


[内訳]

EMEA*2	1,272	1,220	1,263	882	1,339	1,160	713	640	637	725
米州*2	892	1,250	1,149	1,007	1,994	2,160	1,575	1,482	1,455	1,536
アジア	144	170	890	1,088	1,453	1,423	1,558	1,703	2,591	2,596
国内	16,332	16,803	13,752	12,420	11,771	10,647	8,870	5,843	6,213	6,594

## 与信関係費用総額

(億円)



[内訳]

2行合算	▲1,345	▲653	351	▲711	▲1,037	▲479	795	1,298	126	▲384
CF*4	▲501	▲337	▲357	▲441	▲516	▲645	▲836	▲817	▲876	▲211
海外*5	161	▲8	92	▲632	▲1,008	▲450	▲427	▲523	▲1,416	▲847
その他*6	▲249	▲156	32	169	10	21	8	▲15	▲62	▲7

\*1 銀行法に基づくリスク管理債権、地域は債務者の所在地による区分 \*2 EMEA（欧州、中近東他）、米州の12/3期は、その他、アメリカとして開示した計数を表示

\*3 リスク管理債権合計÷貸出金残高（銀行勘定、未残） \*4 ニコスとアコム連結ベース合算 \*5 銀行および信託の海外連結子会社の合算

\*6 その他子会社および連結調整等

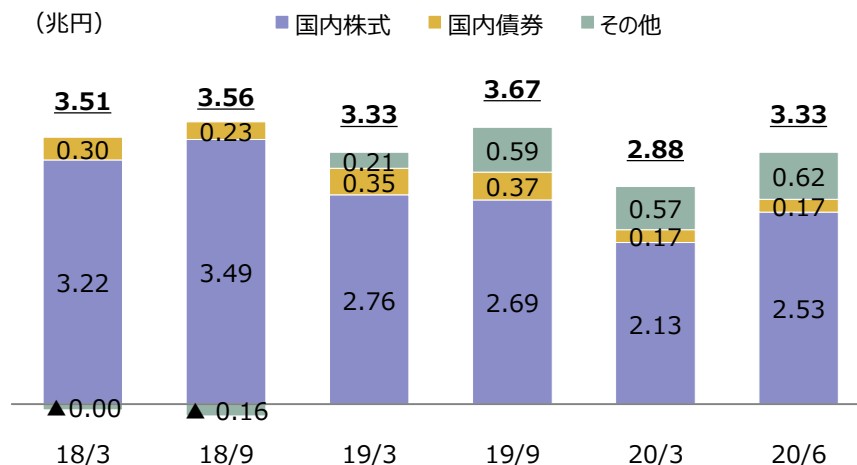
# 保有有価証券の状況

【連結・2行合算】

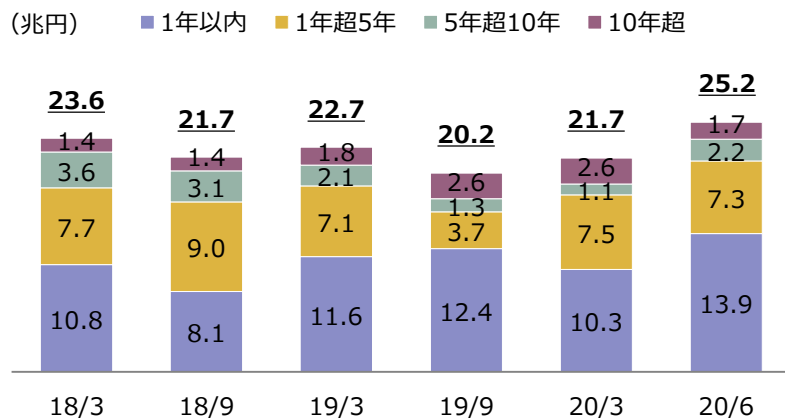
## その他有価証券（時価あり）の内訳

(億円)	20年6月末残高		評価損益	
		20/3末比		20/3末比
1 合計	631,894	10,382	33,378	4,492
2 国内株式	45,231	3,817	25,376	3,977
3 国内債券	313,738	39,007	1,707	▲6
4 うち国債	241,544	35,113	1,268	29
5 その他	272,924	▲32,442	6,293	521
6 うち外国株式	764	▲30	139	12
7 うち外国債券	217,919	▲27,105	6,591	▲790
8 その他	54,240	▲5,306	▲436	1,298

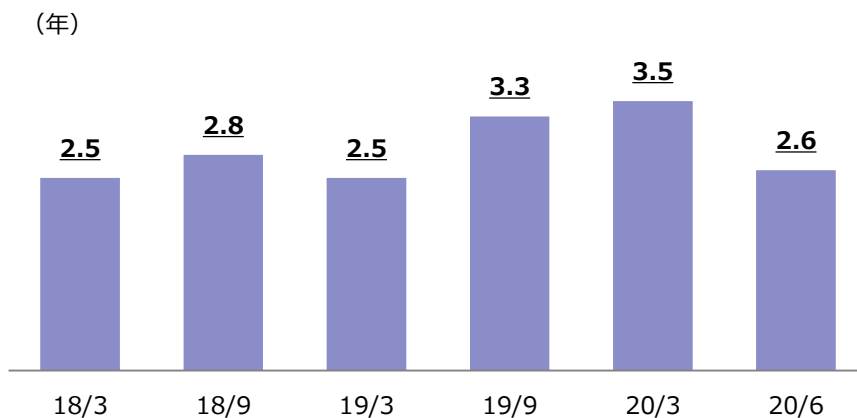
## その他有価証券評価損益の推移



## 国債の残存期間別残高（2行合算）\*1



## デュレーション（国債のみ・2行合算）\*2



\*1 その他有価証券および満期保有目的の国債 \*2 その他有価証券



# 新型コロナウイルス感染症拡大による影響

【連結】

## 新型コロナウイルス感染症拡大による当社ビジネスへの影響\*1

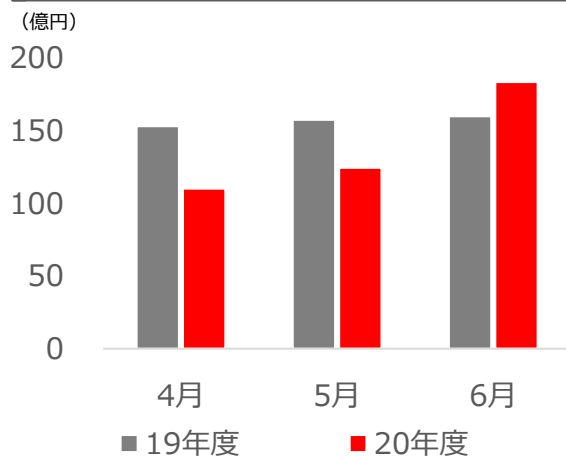
- 世界的な企業活動停滞や消費の落ち込み、緊急事態宣言下での外出自粛などの影響により、資産運用ビジネス、カード決済、外国為替などの取引量が減少。また、世界的な感染拡大に伴う信用リスク増加により、与信関係費用が増加
- 一方で、非対面チャネルでの取引増加や、海外証券ビジネスでの増収もあり

## 新型コロナウイルス感染症拡大により業績への影響のあった主な領域\*1

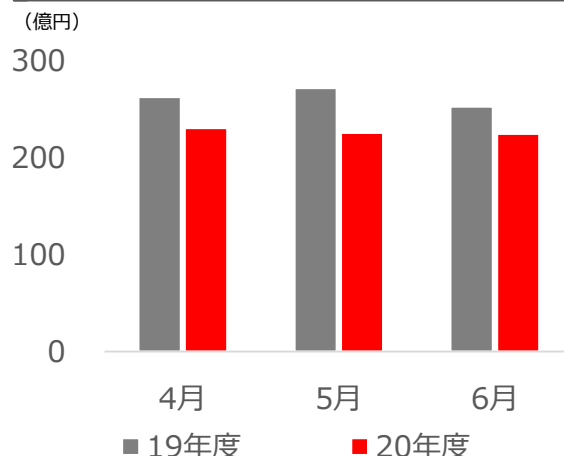
- 金利低下に伴う顧客部門における外貨預貸金収益低下
- 資産運用ビジネスにおける投資意欲減退、窓口販売減
- 個人消費低迷によるカード決済取引減少
- 企業活動停滞に伴う外国為替取引減少
- 与信関係費用増加 等

- 非対面チャネルでの資産運用取引増加
- 起債ニーズ高まり等を捉えた海外証券ビジネス増収
- 貸出金残高の増加、手元資金確保に伴う外貨預金増加
- 経費削減への取り組み加速 等

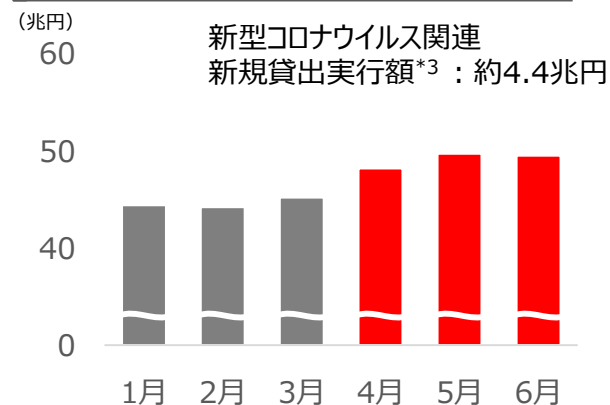
## 資産運用ビジネス 業務粗利推移\*2



## カード決済ビジネス 業務粗利推移\*2



## 国内法人向け貸出残高推移\*2



\*1 新型コロナウイルス感染症拡大が生じなかった場合に想定していた目標に対する影響

\*2 管理計数（現地通貨ベース）。貸出残高は2020年における各月末残高。

\*3 3月10日以降、7月20日までの累計実行額（コミットメントラインの極度内実行を含む）。銀行国内営業拠点からの報告ベース

# ディスクレーム

本資料には、当社又は当社グループの業績、財政状態その他経営全般に関する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。

かかる記述は、現時点における予測、認識、評価等を基礎として記載されています。また、将来の予想、見通し、目標、計画等を策定するためには、一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし前提（仮定）は、その性質上、将来その通りに実現するという保証はなく、客観的には不正確であったり、実際の結果と大きく乖離する可能性があります。

そのような事態の原因となりうる不確実性やリスクの要因は多数あります。その内、現時点において想定しうる主な事項については、決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌、Annual Reportをはじめとした当社の公表済みの各種資料の最新のものをご参照ください。

## 本資料における計数・表記の定義

- 親会社株主四半期純利益 : 親会社株主に帰属する四半期純利益
- ROE (MUFG定義) : 
$$\frac{\text{親会社株主四半期純利益} \times 4}{\{ (\text{期首株主資本合計} + \text{期首為替換算調整勘定}) + (\text{期末株主資本合計} + \text{期末為替換算調整勘定}) \} \div 2}$$
- 与信関係費用総額 : 与信関係費用（信託勘定） + 一般貸倒引当金繰入額 + 与信関係費用（臨時損益） + 貸倒引当金戻入益 + 偶発損失引当金戻入益（与信関連） + 償却債権取立益
- 連結 : 三菱UFJフィナンシャル・グループ（連結）
- 2行合算 : 三菱UFJ銀行（単体）と三菱UFJ信託銀行（単体）の単純合算
- R&C : 法人・リテール事業本部
- JCIB : コーポレートバンキング事業本部
- GCIB : グローバルCIB事業本部
- GCB : グローバルコマーシャルバンキング事業本部
- 受財 : 受託財産事業本部
- 市場 : 市場事業本部
- 銀行 : 三菱UFJ銀行
- 信託 : 三菱UFJ信託銀行
- 証券 : 三菱UFJ証券ホールディングス
- ニコス : 三菱UFJニコス
- MUAH : 米州MUFGホールディングス
- KS : クルンシ（アユタヤ銀行）